
御猫様！ 飼われる。

sakura-i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御猫様！ 飼われる。

【Zマーク】

Z8290Y

【作者名】

sakura-i

【あらすじ】

猫っぽい小説を書いてみました。あまりきたいしないでよんください。よろ^ ^

(前書き)

はじめてというひつじました。あまりたたかいでほしいです。それでわ、よろしくおねがいします。

我輩は、猫である。名前はまだない。そして、受けではない。どちらかといえばタチである。

ちなみに、前世の記憶がある。魔法もある。30までアレの魔法ではない。何もないところから、火を出したり、水を出したり、傷を癒したりも出来る。我輩は、3つくらい魔法が使える。変身と探査、肉体強化である。普通は7・8個は使える。我輩は、平均以下なのである。

今日も探査魔法を使って、ねずみを捕つて食べている。たまに別のものも食べられる。案外自由気まである。

日向で寝ていると足音が聞こえる。「これは、人の足音だ。横目で見てみたら、可愛らしい嬢ちゃんである。我輩汚いから、近寄らないほうがいいぞ。」「ニヤー」

我輩の心は届かないようだ。捕まえられた。飼われるのか、食われるのか。3・7くらいか。

なんか、変な爺さんが出てきた。この格好はまさか…執事だとでも言つのか！

ふむ。飼われるみたいだ。まさか3割のほうがくるとは、我輩の觀察眼は、衰えたのか。おばちゃんがいっぱいくる。これは…メイドさんなのか？…うん。メイドさんだな。風呂場らしきところに連れて行かれた。今は猫なので、暴れておく。

「フギヤー！」案外おばちゃんは力があつた。面倒になつたので大人しく洗わされることにする。

「ニヤー」あ、そこ…き、気持ちいい…ああ、お尻の穴をそんなにこじらないでえ。やめてえ、見ないでえ…ら、らめえ…

我輩は猫である。案外受けもいいかもしれない。とつとつ御嬢ちゃんに引き渡された。名前をつけてくれるらしい。だが、だがしかし、我輩は眠いのである。といつわけで、我輩は寝ます。オヤスミ。

我輩は猫である。名前はまだ覚えていない。べ、別にいやだから覚えるのを拒否しているわけじゃないんだからね！！

我輩もオスである。リリアースは辞めてほしい。でも、ご飯を捕りに行かなくていいのは、楽でいい。

だから、名前に関して言えば諦めて、呼ばれたら反応するよつとしている。

「リリー。どうしてるのー？」我輩を呼ぶ声が聞こえる。「ここは一応居場所を知らせておこう。

「おう、どないした。」あ。

「あれ？ しゃべった？」おっとまずい。まかさなければいけない。「ニヤー、ニヤー……ニヤー……」

「ねえ、リリー。しゃべった？」我輩はさらにいかわいく見せるために首をかしげた！ これでどうだ……。「ニヤー？」

「気のせいよね。少し疲れているのかしら？」そうです。お疲れなのです。ダメ押しをしておこう。我輩はご飯を要求した。ニヤー二ヤー二ヤーン

「まあいいわ。ハイ。」ご飯ですよ。関係ないけど、のつのこのつぱい。

「腕によりをかけて作ったから、きれいに食べてね？」御嬢ちゃんが作ったわけじゃないんだけどね。まあ、出来るだけ頑張ります。ニヤーンー！

「あらあら、おこしそうに食べるわね。」ちよつと、いちちは食事中だ。頭なでてくるな。食べにくいぞ。

「じゃあまたね。お食事が終わったら一緒に遊びましょーね。」

やつと開放された。

ただいま、家?の中を探索中。やはり非常口の場所の把握はやつておかなければいけない。うるうるしているといろいろな人を見かける。鎧を着た人や凄く着飾った人、異様に太った人、メイド仲間で噂話をしている人、若いメイドを口説いている人、若いメイドにたかられている人、若いメイドに世話をされている人、可愛いメイドとキスをしているかっこいい男…この、リア充め！夜道は、背後に気をつけろよ！というわけで、そろそろ御嬢の所に行こうと思う。

「だから私は…」うん？

「だが、このままでは…」あまり聞こえないなあ。魔法でも使って聞いてみるか。

「でも、嫌なものは嫌なのです！」いきなり怒鳴るなよ！頭に響く…

「そう我慢を言わないでくれ。そなたがこの結婚を嫌がついていても、断れないのだ。あの国に逆らつて滅んだ国は数えられないくらいある。我慢してくれ。

それに、この事はすでに決定されている。「まさうじうする」とも出来ない。わかったな…」あれまあ、言い争い中だねえ。

「…わかりました。でも、リリアーヌは連れて行つてもいいですか？」ゑえー

「リリアーヌとは？」

「私の拾ってきた猫です。猫くらいなら、連れて行つてもよろしいでしょ？」「断れ！断れ親父！」

「猫くらいならいいだろ？」「了承するなよ…

「でわ、お父様は、政務に戻つてください。今日はもう顔も見たくありません！」

「ああ、そうか。」親父！帰るなよ！断つてからにしろ…お願ひ

だから！あー、行っちゃった…ついて行かないといけないのか。これが、飼い猫の運命。

あ、御嬢に見つかった「ああ、リリー！」これからもずっと一緒にからね！」なら、オスの名前をくれ。まあ、とりあえず膝の上で丸くなつておcka。撫でてきたから、手を舐めた。

「リリー。慰めてくれるの？」いえ、別に。

「ふふっ、ありがとう。リリー」「どういたしまして。

我輩は猫である。名前はリリアーヌだ。オスだけど。諦めて受け入れた。まあ、それなりに恩返しをしていきたい。

(後書き)

"拝讀、ありがとうございます。"

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8290y/>

御猫様！ 飼われる。

2011年11月24日19時52分発行